

「生きる力を育成する教育の創造」
～確かな学力を育む授業実践を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 新学習指導要領に基づく年間計画の作成

平成24年度から完全実施される新学習指導要領への移行に伴い、本校でも、思考力・判断力・表現力といった、知識を活用するために必要な力の育成に着目し、授業の中のどのような場面でそれらを仕組むかを踏まえ、各教科ごと新学習指導要領に沿った教育課程年間計画の検討・見直しをしていく。

(2) 新学習指導要領を踏まえた授業実践

新学習指導要領のキーワードとも言える「思考力・判断力・表現力」を養うため、学んだ知識を活用する力や言語活動に重点を置いた授業実践を、各教科で検討した。特に、言語活動の充実を図った上で「思考力・判断力・表現力」を養うのには「話し合い」活動が有効であると考え、また本校生徒の自主性・積極性を養うのにも有効であると考え、「話し合い」を取り入れた授業を各教科で検討した。その際、どのような「話す力」「聞く力」を身につけさせるのか、またその力を身につけさせるのに有効な「話し合い」の形態はどんなものかを研究した。その上で、指導案を簡略化し、さらに「話し合い」の取り入れ方をわかりやすくした「授業仕組みシート」を作成し、一人一実践という形をとった。「話し合い」を取り入れた授業を実践する前と後でアンケートをとることにより、本研究の成果と課題も明らかにした。

II 成果と課題

1 新学習指導要領に基づく年間計画の作成

今年度から順次始まっている新学習指導要領への移行措置を踏まえて、各教科領域で教育課程の見直しと手直しを行った。昨年度の成果として、すでに理科と道徳の年間計画ができており、それに続く形で各教科の年間計画を作成した。というのは、来年度の新入生が3年生になったときに新学習指導要領完全実施となるため、来年度こそ1年次から計画的に移行していかなければならないからである。主な改訂のポイントとして、各教科を通じた言語活動の充実、基礎的・基本的な知識を活用して思考力・判断力・表現力等の育成をすること、理数教育の充実、道徳教育の充実等の改善事項が明確になった。各教科の話し合いの時間を多く確保し、現行の時間数の中で新学

習指導要領に沿った内容をどのように扱うのか、授業のどの場面で言語活動を仕組むことができるのか、新出事項の指導方法をどうするのか、具体的な場面を想定しながら、研究を重ねてきた。その成果として、各教科1年生の年間計画と数学の年間計画を作り上げることができた。2年生・3年生の年間計画の作成は、大きな課題として来年度以降の研究に加えていきたい。

2 新学習指導要領を踏まえた授業実践

今年度は、昨年度の理科の授業実践をヒントに「話し合い」を取り入れた授業についての研究に取り組んだ。「ザ・読解力」を参考にして、「課題にもとづいて自分の感じたことや考えたことを話す力」「相手の言いたいことを理解・評価しながら聞く力」を本校生徒に身につけさせたい力として設定し、その力を身につけさせるのに有効な「話し合い」の形態について研究を進めた。同時に「話し合い」についての事前実態調査を行ったところ、「話し合い」の有効性については認めるものの、発言には消極的である本校生徒の実態が明らかになった。そこで、「判断材料（思考手順）」を与えて「発問」し、「思考・判断」させた後「表現」させることでお互いの考えを交流して、さらに考えを深めるという仕組みにもとづいた「話し合い」を有効に取り入れる「授業の仕組みシート」を各学年各教科一つずつ作成し、実践を行った。

なかでも、1年生の英語科と2年生の技術科で授業研究を行った。英語科では「話し合い」ながら英作文を協力して完成させるという授業展開を、技術科では「話し合い」を利用してLED・白熱電球・蛍光灯のいずれを使うのがよいのか考えさせる授業展開を実践した。生徒同士が教え合うことによる学習効果を見ることができ、「話し合い」をする際に教師が気をつけること（必然性・具体性を高めること、「なぜ」という問いかけで考えさせること、生徒のつぶやきを拾ってあげること）を学ぶことができた。

このような「話し合い」を取り入れた実践後に行った実態調査ではほとんどの項目で成長を見ることができ、一定の成果を上げることができたと考える。しかし、積極的に発言することに関してはまだ課題が残っている。また、教科により「言語活動」や「表現」の内容が異なるため「話し合い」を取り入れるのが難しいところもある。

したがって、発言意欲を高める方法や改訂後にどのような実践ができるかを、教員自身が積極的に学び、今後さらに研究していくことが大切である。

Ⅲ 成果物

- 1 新学習指導要領に基づく年間計画
- 2 2年技術科指導案・1年英語科指導案
- 3 各教科各学年「授業仕組みシート」

(研究主任 数野 透)